

次世代型AI-OCRによる請求書等の証憑管理 インボイス・電帳法完全自動化システム



AI-OCR ヨミトルンジャーのご紹介
合同会社バンソウシャテック

AI-OCR ヨミトルンジャーの概要

・はじめに(開発の背景と目的)

- ・ 現在、多くの企業がインボイス制度や電子帳簿保存法への対応に追われ、経理実務の負担が増大しています。

市販のパッケージソフトも多数存在しますが、「月額費用が高い」「自社の細かい業務ルール(書かれていない支払日の計算など)に対応できない」「毎月の処理枚数に応じて課金される」といった課題を抱えています。

本提案は、最先端の生成AI(LLM)とGoogleスプレッドシートを融合させ、「自社の業務フローに100%合わせられる」「月額の従量課金から解放される」、御社専用のカスタムAI-OCRシステムのご提案です。

・システムの全体像と革新的な特徴

- ・ 本システムは、専用のGoogleドライブフォルダに証憑(PDFやスマートフォンのカメラ等で撮影した画像)をドラッグ&ドロップするだけで、裏側でAIがすべての解析・仕分け・検証をバックグラウンドで行うシステムです。

最初に初期設定としての定義は不要で取引先ごとに「日付や金額の位置」を事前設定する必要はありません。
AIが書面全体を俯瞰し、自動で構造を理解してデータ化します。

請求書をみて電卓を叩いて資金繰りを確認する必要から解放され、AIが請求書のみ金額を集計し、支払期日の記載がない場合は、発行日から1ヶ月後の日付(仮)を自動生成して並べるといった現場の実務に合わせた柔軟なプログラムが組み込まれています。

「使い慣れた画面」がそのままシステムに新しく難しい専用ソフトの操作を覚える必要はありません。
誰もが使える「Excel」のシートと同様の「Googleスプレッドシート」がそのまま管理画面になります。

しかも、各項目の並び替えや集計作業は最初から組み込まれていて、見積書の有効期限や備考(設置場所、納品場所など)も読み取って表示します。請求書の支払先としての金融機関名は金融機関コードを検索して追記し、支店名、口座種類、口座番号を抽出して表示します。

請求書と納品書及び領収書は、AIが勘定科目も自動判定して付加します。
事業者様側で科目の割り振りを修正でき、その修正はAIが学習して、次回以降に活かします。

- ・ オプションとして、指定の会計ソフトへの取り込みが出来る変換ツールも開発予定です。

AI-OCR ヨミトルンジャーの主な機能

機能カテゴリー	具体的なシステム挙動(仕様)	導入による実務メリット
① 電子帳簿保存法(検索要件)への完全対応	AIが証憑から「取引年月日」「取引金額」「取引先名」の3項目を100%自動抽出。 スプレッドシートの標準フィルタやソート機能を用いて、国税庁が求める「日付・金額・取引先の指定・範囲検索」を一瞬で可能にします。	電帳法対応のために、人間が手動でファイル名に日付や金額を打ち込んだり、手入力で作ったりする膨大な作業時間が「ゼロ」になります。
② 改ざん防止・長期安全保存(電帳法要件)	処理された原本ファイルは、タイムスタンプ代わりに「処理日時」を記録した上で自動アーカイブ。さらにGoogleドライブの「版管理(変更履歴の自動保存)」機能と連携します。	万が一ファイルが上書き・削除されても過去の版にいつでも戻せるため、電帳法が求める「真実性の確保(訂正削除履歴の確保)」をシステムの的に担保します。
③ 自動書類判別&スマート仕分け	入力フォルダ内のファイルをAIが解析。「請求書」「領収書」「納品書」「見積書」等の書類種別を100%自動判定し、台帳へ分類記録します。	領収書や見積書が混ざってアップロードされても、手動で仕分ける必要が一切なくなります。
④ 請求書限定の厳格自動集計	資金需要集計(QUERY関数)の連動により、支払予定金額の集計対象を「書類種別＝請求書」のみに厳格に制限します。	領収書(支払済み)や見積書の金額を巻き込む「二重計上(ダブリ)」のミスをシステム側で完全に防ぎます。
⑤ 支払期日の論理自動生成	紙面に「支払期日」の明確な記載がない場合、AIが発行日をベースに「1ヶ月後の末日」などの仮の日付を自動計算・生成します。	「いつ、いくら払うか」が明記されていない請求書でも、手入力することなく即座に資金繰り予定表へ組み込みます。
⑥ (仮)支払日の名寄せ・動的ソート	自動生成された「(仮)支払日」の表記から一時的に文言を除去し、同じ日付の確定請求書と動的に名寄せして期日順にソートします。	表記のブレに邪魔されることなく、カレンダー通りの正確な「日付別・必要支払金額合計」が一瞬で可視化されます。
⑦ インボイス番号リアルタイム照合	抽出した登録番号(T+13桁)を使い、国税庁のデータベース(API)へ自動でリクエストを送り、有効な事業者かを照合します。	国税庁登録の「正式名称」を自動取得し、未登録やミスがある場合は画面上に「色付け」で警告するため、チェック漏れがゼロになります。 個人事業主のために登録番号が不一致の場合もて修正で対応可能です。
⑧ 勘定科目の自己学習(AI同期)	人間が一度スプレッドシート上で手動修正した「正しい勘定科目」を、「AI学習マスタ」へ自動でフィードバック(同期し、次回以降の仕訳に対応します)。	使えば使うほど、その企業の独自の取引先や仕訳パターンをAIが学習し、次回以降の自動入力精度が「自社最適化」されていきます。
⑨ 双方向リンクによる高速監査(監査対応)	台帳シートと明細データシートの「ファイル固有ID」が連動。セルを選択するだけで、該当するもう一方のシートの行へ瞬時にジャンプします。	税理士の監査時や社内チェック時に、対象データの詳細や品目を一瞬で行き来でき、確認の手間が10分の1に激減します。

※消費税可変システム搭載済み(消費税の税率変更や新たな税区分にも対応可能)。

AI-OCR ヨミトルンジャーと他社の違い

比較項目	大手システム(マネーフォワード・弥生・楽楽精算など)	本カスタムAI-OCRシステム
ライトプラン制度	なし。 個人でも法人でも同一料金。	あり。個人だけでなく法人でも1人社長の場合はライトプランの個人事業主様/一人社長様版が適用可能。
枚数制限	月額固定費 + 枚数に応じた従量課金	枚数制限はなし。 費用は買取の場合は、年間保守料 サブスク(定額制)の場合は、月額固定費
利用人数	制限あり。増やす場合は別途月額固定費	法人版は無制限。個人事業主/人社長版は3名まで
電帳法オプション	電帳法対応のために追加プランの契約が必要な場合が多い	標準搭載(スプレッドシートとドライブで追加料金なし)
仕訳機能	【システム側の固定ルール】 「この品目は〇〇費」という一般的なAI判定のみ。会社独自の特殊な仕訳ルールや、例外的な処理を細かく覚え込ませることは困難	【自社のローカルルールに100%追従】 「A社からの請求書は、品目に関わらず一律で〇〇費にする」「この事業部が関わるものは〇〇費」といった、自社固有の仕訳ルールをAIに学習させます。
自社ルールの再現	システム側の仕様に人間が合わせる必要がある	「支払日の自動計算」など自社ルールを100%再現
導入の敷居	専用ソフトの操作方法を覚える教育コストが必要 スマートフォンにも専用アプリが必要	スプレッドシート(エクセル)感覚で誰でも即座に使える GoogleアカウントとGoogleドライブへのアクセスが出来る環境さえあれば専用ソフトも専用アプリも不要

「他社ソフトは『一般的な仕訳』しかできませんが、このシステムは『**御社専用の仕訳ルール**』をそのまま学習します」
「AIの仕訳が間違っていたら、スプレッドシート上で打ち替えるだけ。次からはAIがそれを『**正解**』として自動で覚えてくれます」

導入に関してのご質問等、お気軽にお問い合わせください。
本システムの導入にはGoogleアカウントが必要です。

Powered by Google Gemin



システム販売元
バンソウシャテック合同会社
岡山県倉敷市亀島1丁目26-71
<https://bansosya-tec.com/>
システム企画/開発 **バンソウシャ**